

日交研シリーズ A-650

平成 26 年度自主研究プロジェクト

「理想の移動に関する研究」

刊行：2016 年 3 月

理想の移動に関する研究

Research on Ideal Moving

主査：金 利昭（茨城大学工学部教授）

Toshiaki KIN

要 旨

人々が望んでいる理想の移動手段、理想の移動環境とはどのようなものであろうか。人は日常生活の中で移動に多くの時間を費やしており、移動は日常生活において必要不可欠なものとなっている。従来の交通計画分野においては、その移動は必要のないものとされたために「より速く、より遠くに、より安く」といった機能的側面が強調された合理的かつ効率的な交通整備がおこなわれてきた。しかし移動は人間にとって意味のある場合が多いと考えられ、移動自体の質を高めていくことがより快適な生活を営むために重要だと考える。都市空間や交通システムのあり方を考えていく上で、また交通文化を豊かにしていく上では、人間にとっての移動の意味・価値を再認識することが重要と考える。

本研究の目的は、平成 25 年に実施した全国 web 調査データ等を用いて、移動することの意味・価値を明らかにするとともに、理想の移動とは何かを探ることである。

本研究において得られた知見を以下に示す。

- ① 全国 8 都市の「移動手段の好き嫌い」「距離別の理想移動手段」「現状と理想の移動」を比較することで、交通環境や気候、地形といった環境要因が移動に与える影響を明らかにした。理想の移動手段をみると、どの都市においても移動時間ゼロの「魔法のドア」選択割合は 50%前後、徒歩は 18%前後である。このことから理想の移動手段として「魔法のドア」と徒歩は地域環境の影響を受けにくい固定層が存在している可能性が考えられる。
- ② 東京データを用いて「移動手段の好き嫌い」「距離別の理想移動手段」「現状と理想の移動」について世代別・目的別に分析した。移動の好き嫌いでは、徒歩、バス、鉄道では世代間に有意な差がみられ、これらの手段は加齢とともに好かれる傾向がある。理想の移動手段では、どの目的においても若い世代ほど移動時間ゼロの「魔法のドア」を選択する割合が高いが、加齢とともに徒歩や自転車を選択する割合が高くなる。このことから高齢世代ほど移動を好み、その価値を見出していると言える。
- ③ web 調査の自由記述回答から移動の意味を網羅的に抽出し、機能的利点 10 項目（交通安全性、防犯性、防災性、速達性、低廉性、確実性、自由性、簡便性、快適性、環境適合性）と意味的利点 6 項目（思索、健康・運動、気分、自由・季節、風景・情報、コミュニケーション）として整理し、「交通移動の意味を考慮した移動の利点分類表」として完成した。ここで示した移動の意味的利点が、移動の意味・価値であると言える。

キーワード：移動の意味 理想の移動

Keywords: Meaning of Moving Ideal Moving